

博 修 士 会 会 報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2016年7月1日発行

▲梅田キャンパス (イメージ)



ごあいさつ

関西大学博修士会会長 北嶋 弘一

関西大学博修士会は、昭和27年（1952年）に設立されて以来、本年で64年目を迎えます。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素より本会の運営に対しまして心温まるご助言をはじめ特別協力金のご寄付など数々のご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本年は、関西を代表する企業の一つであるシャープが台湾企業のホンハイの傘下に入るなど激変の年を迎え、アベノミクスの新三本の矢による歯止めの利かない円高、原油安、株価下落によって不安定な経済状況が続いており、その効果は中小企業の底上げにまで至っていない厳しい現状にあります。学生の求人状況はかなり好転していることがせめてもの救いでもあります。

関西大学大学院修了生の総数は約20,000人近くになり、校友会組織の中でも大所帯を誇る同窓会に成長を遂げてまいっております。現在の関西大学大学院は、法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康、法務、会計、臨床心理の各研究科を擁し、博士課程前期課程および同後期課程に専門職学位課程を有する我が国屈指の大学院に発展・成長しております。

去る3月22日に举行されました大学院学位記授与式では、535名の修士と78名の専門職を合せた613名の修了生およ

び21名の博士を本会の新たな会員に迎えるとともに、昨年9月18日に行われた春学期学位記授与式では15名の修士と8名の専門職の計23名の修了生および11名の博士を迎えました。また、4月2日に行われました大学院入学式では15研究科749名のフレッシュな新入生を迎え、関西大学の学問および研究の中核として、本年創立130周年を迎える母校の伝統を超える未来の更なる飛躍を担っていただくことを期待するものであります。

下記にご案内のとおり、来る7月30日（土）には平成28年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。本年度の総会後の学術講演会では、創立130周年記念事業の一つとして4月に開設された「関西大学なにわ大阪研究センター」において、その中心として精力的に研究を進めておられる本学名誉教授の藪田 貫先生をお招きして、「『大阪』に生まれた大学として—関西大学なにわ大阪研究センター設立を祝して—」と題した講演をお願いしておりますので、会員の皆様には是非ともご出席頂き、藪田先生と親しく懇親を交わして頂きたいと考えております。

会員の皆様には、公私にわたり大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、7月30日（土）、関西大学千里山キャンパスの校友・父母会館において開催の平成28年度博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会にご出席下さいますようお願いより役員一同お待ち申し上げます。

平成28年度 総会・講演会・懇親会のご案内

日時：平成28年7月30日（土） 12:30から受付開始

場所：関西大学千里山キャンパス：校友・父母会館

内容：第1部：総会

13:00～14:20 2階会議室

第2部：学術講演会

14:30～15:30 2階会議室

演題：『『大阪』に生まれた大学として

—関西大学なにわ大阪研究センター設立を祝して—

講師：藪田 貫 先生（関西大学 名誉教授）

第3部：懇親会

15:40～17:30 レストラン「紫紺」

総会・懇親会参加者：会員+会員の紹介者に限定
（事前申込制：郵便振替とする）

総会・懇親会会費：会員と同伴者は5,000円、院生会員は無料

お願い：ご出席の方は、7月22日（金）までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

■郵便振替：00900-2-68733

関西大学博修士会：
通信欄に「総会費」など
ご記入下さい。

■問合せ先：博修士会総務部

■FAX：06-6380-8476

校友会 気付 博修士会 宛
■e-mail：kandaimd@muse.ocn.ne.jp
（総務部：中原 宛）

■はがき：〒564-8680

吹田市山手町3-3-35

関西大学校友会事務局気付 博修士会

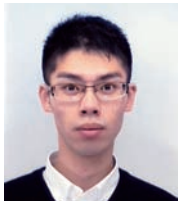


関西大学 名誉教授

藪田 貫 先生

会員からのメッセージ

博士論文の執筆を終えて



東アジア文化研究科
榎木 亨
(平27 博 文化交渉学)

私は関西大学文学部総合人文学科中国語中国学専修を卒業後、大学院東アジア文化研究科文化交渉学専攻に進学し、本年3月に博士課程後期課程を修了いたしました。

大学院では、日本近世期（江戸時代）における朱子学の受容が理論的な側面に止まらず、実践的な側面からも行われていたことを明らかにするため、朱子学を代表する楽律書（音律・音楽に関する理論書）であり、東アジア近世期において最も正統な楽律書として認識されていた蔡元定（1135-1198年）の『律呂新書』（1187年）を取り上げ、これまで着目されてこなかった日本近世期における『律呂新書』の受容と変容の様相について、研究を行ってきました。

研究を開始した当初は、参考にすべき先行研究がほとんど無かったため、どこから手を付ければいいのかさえわからない状況でした。しかし、修士課程在籍時に関西大学図書館の内藤文庫で京都の朱子学者である中村惕斎（1629-1702年）の『筆記律呂新書説』を発見し、同書を手掛かりとして調査・分析を行ったところ、日本近世期における『律呂新書』研究が中村惕斎を中心として展開していたことが明らかになりました。そこで、修士課程では中村惕斎を対象を絞り、「『律呂新書』の日本における受容と展開—中村惕斎を中心として—」という題目で修士論文を執筆しました。

しかし、修士論文では日本近世期における『律呂新書』研究の受容については明らかにすることはできたものの、その後の展開過程および変容の様相については考察できなかったため、博士課程に進学し、研究を継続することを決意しました。

博士課程に進学後は、全国各地の図書館や資料館、さらには海外の図書館などでも資料収集を行い、通史

的な観点から日本近世期における『律呂新書』研究の全容解明を目指して研究を行いました。そして、得られた成果を整理して、博士論文として「日本近世期における楽律研究—『律呂新書』を中心として—」を提出いたしました。

博士課程在籍中は資料収集・資料整理と読解・論文執筆・学会発表という作業を2～3ヶ月周期で繰り返しており、毎日が目にも止まらぬ速さで過ぎていきました。しかし、そんな中でも迷うことなく研究を進め、着実に研究成果を積み重ねていくことができたのは、指導教授である吾妻重二教授から、常に適切かつ丁寧なご指導を賜ることができたためです。この場をお借りして、吾妻先生には改めて感謝を申し上げます。また、関西大学からは奨学金を給付していただき、さらには、日本学術振興会からも特別研究員として採用していただけたため、この3年間、経済的な問題を心配することなく、安心して研究に打ち込むことができました。ここに記して、感謝の意を表します。

今後は、自身の見聞をさらに広げるべく、予てから希望していた中国へと留学し、研究をさらに深化させていきたいと考えております。

大学院で学んで



中橋 紀子
(平27 修 ガバナンス研究科)

大学院で学ぶ機会が与えられたことは、ラッキーなことであり、感謝すべきことだと思います。以前より自分には何かが足りないと感じ、漠然とですが、大学院へは行きたいと思っていました。私の所属している社労士会では、毎年、大学院への推薦の話があり、常に興味はありましたが、会社勤めでは、なかなか時間を割けないだろうと応募には、ずっと二の足を踏んで

いました。たまたま直属の上司が2名同時に定年を迎えるということがあり体制が少し変わったという時、新しい上司に大学院進学相談をしたところ、「大学院で学んだことを会社に還元してくれればいい」と非常に協力的で社内調整をしていただき、進学が実現しました。

関西大学は出身校でしたので、徐々に通うことになったわけですが、会社勤めも並行で行うという「二足の草鞋」はかなりの至難の業でした。生活の為ということもありますが、「働く」ことを止めるという選択肢はないと考えていました。研究テーマとして「雇用」を扱う以上、そこから離れないで研究したいという思いもあったのですが、想定外の業務の発生もあり仕事と大学院での学びの両立は本当に大変でした。また、私の生活を全面的にサポートしてくれていた母の急逝で、生活スタイルを大きく変えないといけなくなったこともあり、一時は最後まで続けられないかと思うこともありました。しかし、なんとか論文を書ききることができたのは、ご指導くださった先生方やガバナンス研究科と一緒に学んでいた人たちの支えがあり、常に助けてもらえたことが大きかったと思っています。

私は研究テーマとして「雇用における合理的配慮」を取り上げましたが、それは私自身に密接に関係することであり、働き続ける上で最も必要なことと考えた

からです。「合理的配慮 (reasonable accommodation)」は平成28年4月から施行されている障害者差別禁止と対を為す概念で、その提供を各企業は求められていますが、私自身、身体障害者ということもあり、自分の為に知っておく必要がありました。また、どこに行くにも車いすである為、そこに着目されることが多く、社労士である以上、聞かれた場合には正しく伝えないといけないということもありました。

「合理的配慮」という言葉は、ちょうど大学生の時に制定されたAmerican with Disabilities Actで知っていました。当時「訴えたらこの段差はなくしてもらえよ、ここがアメリカなら」と誰かに言われたことを覚えています。それから25年経って、やっと日本でも法律で規定され、これから本当の意味で「合理的配慮」が認知されることを願っています。

私が現在勤務している会社でも今回の法改正で、障害者の相談窓口ができたり、困っている状況のヒアリングをされたりするようになりましたが、「中橋さんの為にやってあげないと」に終始していることもあり、正しく伝わることの大変さを感じます。大学院で研究させていただけた期間が無駄にならないよう、会社やその他のところで還元していけるよう頑張りたいと思います。

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略) (平成27年4月1日~平成28年3月31日)

安部 大鈺	天井 一夫	網本 浩幸	今村 隆	梅本 昌浩	緒方 正則	岡本 哲和
北川 勝彦	北嶋 弘一	北村 英子	木村 昌司	後藤 安子	竿田 嗣夫	笹倉 淳史
早苗 良雄	沢 勲	鹿田 幸治	篠塚 義弘	富田 好久	中橋 久史	中原 住雄
西崎 義男	東村 高良	藤井 英志	松田 充弘	松本 始	宮下 文彬	水野 一郎
明神 信夫	横山 清美	吉田 美紀				

「大阪」に生まれた大学として

—関西大学なにわ大阪研究センター設立を祝して—



兵庫県立歴史博物館 館長
関西大学 名誉教授
藪田 貫

関西大学が、1886（明治19）年11月4日の関西法律学校発足に起源をもつことは、高等学校の日本史教科書にも掲載され、ひろく知られており、消えることのない歴史上の事実である。しかし、その大学に学び卒業した人々や、そこで働く教職員にとっては事実以上の意味をもっている。なぜなら、人それぞれに誕生日をもつと同様に、大学が創立記念日と昇格記念日という二つの記念日を持ち、それが学年暦に載っているからである。明日は20歳の誕生日だ、いよいよ還暦だと、その日が来ることで人はなにかしら気分が一新される、あるいは一新したくなる—そんな記念日をわたしたちは共有しているのである。

130年目の記念日を迎えることに、関西大学に勤務した一人としてわたしは、気分の高揚を覚えるが、その理由はほかでもない。創立130周年記念事業の一つとして、「関西大学なにわ大阪研究センター」が設立されたからである。

2005年から10年間、文部科学省の補助をうけて進めてきた大阪の人文科学的研究の潮流—なにわ・大阪文化遺産学研究所と大阪都市遺産研究センター—、同じく文部科学省の補助をうけ2010年にスタートした社会科学的アプローチをとる社会的信頼システム創生センター STEPの潮流とが合流し、「大阪に生まれた」関西大学にはじめて、大阪研究の永続的な研究拠点が誕生

したのである。都市の将来像を巡って右往左往する大阪で、歴史・文化政策の貧困な大阪で、関西大学が「なにわ大阪の歴史と文化および景観等に関する研究と地域との連携の成果を次世代に継承していく拠点」を創ったのである。新センターがわたしたちの大阪を変えるのではないかと期待するのはわたし一人ではないだろう。

この10年間のわたし自身の経験を通して言えることは、第1に、大阪の歴史・文化の豊かさである。「豊臣期大坂図屏風」の発掘や芝居町道頓堀のCG化は、それを遺憾なく示す。第2に、道頓堀商店街や天神橋筋商店街といったコミュニティのもつ力である。大学と商店街の連携によって違法駐輪対策が立てられ、道頓堀開削400年が祝われた。第3に、関西大学が進めていることへの大きな期待感である。「大阪に生まれた」大学の地力であり、大学への信頼であるとも言える。そして第4に、大阪天満宮と住吉大社という大阪を代表する古社との連携で、あらたな地域研究の展開する兆しが生まれていることである。両社との連携を主導している社会学部与謝野有紀教授と文学部黒田一充教授が、それぞれ新センターのセンター長と副センター長に就任されたのは、実に喜ばしい。

思い出してほしい—130年前、先人たちが関西法律学校を立ち上げる時、主意書に「わが大阪はつとに文学に優れたる地にして」と記したことを。大阪の文化的伝統の上に、実用の学としての法律学校の花が咲き、さらに総合大学という実がなることを先人たちは構想していたのである。その想いは、関西大学なにわ大阪研究センター設立として130年目に実を結んだといえるだろう。

大学院ニュース

Graduate School News



連合教職大学院の開設とその特徴

連合教職大学院教職実践研究科 教授 米津 俊司

毎年130名を超える新人教員を世に輩出している関西大学は、2015年4月、大阪教育大学、近畿大学と連合して大阪教育大学大学院連合教職実践科（通称「連合教職大学院」）を開校した。本研究科の概要と特色を紹介したい。

1. 大学院の概要

連合教職実践研究科は、上述のとおり関西大学、大阪教育大学、近畿大学の連合による大学院であり、その目的は、教員養成・現職教育の高度化に寄与することである。1学年定員30名で、学校マネジメント（定員5名）、教育実践コーディネート（定員10名）、教育実践力開発（定員15名）の3コースに分かれている。2015年度入学者は37名、16年度34名であり、担当教員は、研究者教員、実務家教員各9名（合計18名）が指導にあたっている。教育課程は、共通科目、学校実習科目、コース科目、課題研究科目から成り、学修はすべて夜間（18時～21時10分）ないし土曜日や長期休業中に実施している。

2. 本研究科の特色

1) 大阪の教育力を結集

本研究科は、これまで大阪における教員養成に重要な役割を果たしてきた大阪教育大学と総合私立大学である関西大学、近畿大学の3大学の連携によって構成されている。関西大学の今春の教員採用試験合格者数は132名であり、大阪の大学で常にトップクラスにある。大学連携の内容は、教育研究資産の共有、専任教員の派遣、進学者推薦枠の確保等であり、現在1、2年次の学部卒生（SM）33名中12名は本学からの入学者である。

2) すぐれた教員による確かな指導

大学院の講義や実習では、3大学に所属する18名の教員が指導を担当している。研究者教員は、それぞれ専門分野の学術研究に関する数多くの業績を有し、

実務家教員は、大阪府下の学校や教育行政に長く勤務し教育問題解決に尽力してきた人材である。教職に必要な実践的指導力や探究力等を高めるため、複数の教員がチームティーチングを展開している。

3) 理論と実践の融合を図るカリキュラムの提供

本研究科では、大学院生が専門職としての教師に必要なとされる力量を確保し、さらに発展させることができるように、キャンパスとフィールドを結ぶカリキュラムを提供している。教育課程、学習指導法、生徒指導や教育相談、学校経営と学級経営等について、その理論や実践動向等を学ぶ科目を体系的に用意している。さらに、学びのスタイルは、いわゆるアクティブ・ラーニングを重視している。

4) 教職経験に応じたコース制の導入

本研究科には、学校マネジメント、教育実践コーディネート、教育実践力開発という3つのコースが設定され、大学院生が教職経験に応じた学びを進めることを保障している。それぞれのコースでは、スクールリーダー、ミドルリーダー、若手リーダーという教師像に基づいて、それに必要とされる力量の獲得に資するコース科目を用意している。

5) 修学は交通至便な天王寺キャンパス

本研究科の建物は、大阪教育大学の天王寺キャンパスにあり、交通至便な天王寺駅から徒歩10分の場所に位置し、約1時間の移動時間で大阪府下の多くの地域から通学可能である。

3. さいごに

現在、教育界では主体的・協働的に学ぶ学習への教育のパラダイム転換が求められており、新たな教育の創造のために「学び続ける」教員の育成や「スクールリーダー」の養成が急務となっている。教育界の期待に応えられる人材を育成する連合教職大学院へ多くの関大生が入学することを期待している。

総会議案書

〈第1号議案書〉

平成27年度事業報告

平成27年4月 1日から

平成28年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

平成27年度 総会・学術講演会・懇親会

開催日時：平成27年8月1日（土）13:30～

開催場所：関西大学 校友・父母会館

来 賓：前田 裕 関西大学 副学長（国際部担当）

植田 芳光 関西大学 校友会副会長

仁井ひろみ 関西大学女子秀麗会会長

中村 修 関西大学 校友会事務局次長

◇第1部 総会（議事）：2階会議室

(1) 平成26年度事業報告

(2) 平成26年度収支決算および監査報告

(3) 平成27年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会：2階会議室

演 題：『生物由来不凍タンパク質の機能と冷凍食品への応用』

講 師：化学生命工学部 教授

河原 秀久 先生

◇第3部 懇親会：レストラン「紫紺」

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

・平成27年4月2日（火）17:00～

関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺「桃源」

（総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算の件、その他）

◇常任理事会

・平成28年2月26日（土）18:00～

関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺「桃源」

（修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件、平28年度総会・学術講演会・会報発行計画、役員推薦の件等）

◇その他

(1) 平成27年4月2日（木）

・大学院入学式に出席（千里山中央体育館）（会長コーナ）

学生会員への勧誘資料配布（総務部・広報部・財務部）

(2) 平成27年4月5日（日）

・2015スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加（会長コーナ）

(3) 平成27年6月13日（土）

・校友会第105回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・総務部）

(4) 平成27年7月1日（水）

・「会報2015年号」を編集・発行（広報部）

(5) 平成27年7月4日（土）

・全国組織代表者会議（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・総務部）

(6) 平成27年10月18日（日）

・平成27年度校友会総会（関西大学BIGホール100）に出席（全部署）

(7) 平成28年1月15日（金）

・校友会新年互礼会（大阪新阪急ホテル）に出席（会長コーナ）

(8) 平成28年3月22日（火）

・学位記及び博士課程後期課程単位修得証書授与式（関西大学

BIGホール100）に出席（会長コーナ）

・新会員の入会勧誘資料配布（総務部・渉外部・財務部・広報部・事業部）

・記念写真撮影（渉外部・事業部・総務部）

(9) 平成28年3月26日（土）

・校友会第106回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・総務部）

〈第2号議案書〉

平成27年度収支決算報告書（案）

一般会計収支決算書

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

（収入の部）

（単位：円）

項 目	予算額	実行額	差引差額
経 常 収 入	831,000	707,136	123,864
1. 会 費 収 入	300,000	324,000	▲24,000
① 正会員入会金収入	60,000	60,000	0
② 院生会員入会金収入	240,000	264,000	▲24,000
2. 事 業 収 入	180,000	95,000	85,000
① 総会会費収入	150,000	95,000	55,000
② 広告料収入	30,000	0	30,000
3. 雑 収 入 等	351,000	288,136	62,864
① 雑 収 入	50,000	38,000	12,000
② 特別協力金収入	300,000	250,000	50,000
③ 受 取 利 息	1,000	136	864
前 期 繰 越 金	1,261,410	1,261,410	0
合 計	2,092,410	1,968,546	123,864

（支出の部）

（単位：円）

項 目	予算額	実行額	差引差額
経 常 支 出	1,083,000	781,897	301,103
1. 一 般 管 理 費	223,000	68,858	154,142
① 通 信 費	50,000	22,588	27,412
② 事務用消耗品費	80,000	982	79,018
③ 支 払 手 数 料	13,000	8,408	4,592
④ 雑 費	80,000	36,880	43,120
2. 会 議 費	270,000	244,675	25,325
① 総 会 費	200,000	176,525	23,475
② 諸 会 議 費	70,000	68,150	1,850
3. 事 業 費	590,000	468,364	121,636
① 印 刷 費	450,000	415,144	34,856
② 修士記授与記念写真費	100,000	53,220	46,780
③ 記 念 品 費	40,000	0	40,000
予 備 支 出	130,000	100,000	30,000
予 備 費	130,000	100,000	30,000
当 期 支 出 合 計	1,213,000	881,897	331,103
次 期 繰 越 金	879,410	1,086,649	▲207,239
合 計	2,092,410	1,968,546	123,864

総会議案書

特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,204,731	次期繰越金	1,204,929
受取利息	198		
合計	1,204,929	合計	1,204,929

名簿特別勘定

自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	853,412	次期繰越金	853,552
一般会計より入金	0		
受取利息	140		
合計	853,552	合計	853,552

財産目録

平成28年3月31日現在

(資産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計収支(りそな/難波)	416,553
振替貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	678,100
通常貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	1,996
小計		1,096,649
普通預金	特別会計 奨学金特別基金用(りそな/難波)	1,204,929
普通預金	特別会計 名簿特別勘定用(りそな/難波)	853,552
合計		3,155,130

(負債及び正味財産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
預り金		10,000
正味財産	次期繰越金	3,145,130
合計		3,155,130

監査報告書

関西大学博修士会
会長 北嶋 弘一殿

私たちは、平成27年4月1日から平成28年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施いたしました。

監査の結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。

平成28年4月28日

監事 澤 勲 
監事 竿田 嗣夫 
監事 水野 一郎 

〈第3号議案書〉

平成28年度 一般会計収支予算(案)

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常収入	831,000	
1. 会費収入	300,000	
① 正会員入会金収入	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
② 院生会員入会金収入	240,000	院生会員入会見込 12,000円×20人
2. 事業収入	180,000	
① 総会会費収入	150,000	総会出席見込 5,000円×30人
② 広告料収入	30,000	広告掲載見込 10,000円×3件
3. 雑収入等	351,000	
① 雑収入	50,000	お土産料、記念写真代他
② 特別協力金収入	300,000	
③ 受取利息	1,000	預金利息等
前期繰越金	1,096,649	
合計	1,927,649	

(支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常支出	1,083,000	
1. 一般管理費	223,000	
① 通信費	50,000	総会、役員会案内発送費
② 事務用消耗品費	80,000	文房具、事務用品費
③ 支払手数料	13,000	振込、振替送金手数料
④ 雑費	80,000	
2. 会議費	270,000	
① 総会費	200,000	懇親会費
② 諸会議費	70,000	役員会会議費等
3. 事業費	590,000	
① 印刷費	450,000	会報、総会案内状印刷費
② 修士記授与記念写真費	100,000	
③ 記念品費	40,000	
予備支出	30,000	
予備費	30,000	
当期支出合計	1,113,000	
次期繰越金	814,649	
合計	1,927,649	

*予備費の支出は、役員会の承認を得るものとする。

〈第4号議案書〉

役員改選

平成27年度 第63回博修士会 総会・学術講演会



総会は、関西大学校友・父母会館で、前田裕副学長、植田芳光校友会副会長、仁井ひろみ女子秀麗会会長、中村修校友会事務局次長を来賓にお迎えして、8月1日（土）13時30分から開催された。黙祷と学歌斉唱を行った後、前田副学長と植田校友会副会長の来賓挨拶を頂いた。総会では、平成26年度の事業報告と収支決算報告、そして平成27年度予算（案）を全員一致で承認した。

続く学術講演会では、平成27年4月に文部科学大臣表彰科学技術賞（開発部門）を受賞された関西大学化学生命工学部の河原 秀久教授から「生物由来不凍タンパク質の機能と冷凍食品への応用」と題して御講演を頂いた。講演では、私達の生活の必需品となっている冷凍食品のメリットと冷凍・解凍における氷結晶の問題点をとりあげ、河原先生が研究されている不凍タンパク質の安全性と有用性について分かりやすく説明して頂いた。この研究がすでに50品目以上の食品に应用されている事に一同驚いた。今は飛行機の凍結防止という分野でも応用研究をされている事が披露された。講演後、レストラン「紫紺」に場所を移した懇親会では、終始和やかな宴を過ごすことができた。

（博修士会 広報部）

668名の新博修士の誕生 749名の新入生を迎える



平成28年度 大学院入学式

平成27年度関西大学大学院学位記（修士・専門職）授与式は3月22日に千里山キャンパスのBIGホール100で行われた。学位被授与者は前期課程（修士）535名、専門職78名の合計613名であった。当日の会場は、修了生とご家族で満員であった。また、博士課程後期課程単位取得者は26名、修了者は19名の合計45名であった。これに、昨年9月8日に行われた学位記授与式で誕生した博修士を加えると668名の新博修士が誕生した。

修了生に対して、学位授与に繋がった毎日の地道な研鑽に敬意を表した楠見晴重学長は、今日の地球規模の課題に対し更なるイノベーションを創出すること、そのためには、健康に留意し、若い人々の行動力と本学で学んだチャレンジ精神が必要であると激励した。

平成28年度大学院入学式は4月2日に千里山中央体育館で行われた。春学期の入学者は博士課程前期課程ならびに修士課程、博士課程後期課程、および専門職大学院で、合計749名であった。

新入生に対して、楠見学長は、自分の研究のどこが独創的なのか、常に世界を見据えたうえで国際的に通用する成果を挙げることを目標とすること、グローバルに活躍するためには、失敗を恐れず常に挑戦する気持ちを持って積極的に取り組むこと、国内外の論文に接し、多くの人々と交わり人的なネットワークを構築することなど、地道な積み重ねが必要であることを強調した上で、充実した大学院生活を送って頂きたいとの希望を表明した。

（博修士会 広報部）

お知らせ!

ホームページも見て下さい!

<http://www2.kandai-koyukai.com/al/kandai-md/>

博修士会会報 2016年号

2016年7月1日 発行

発行人 北嶋 弘一 編集人 北川 勝彦

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
関西大学校友会事務局気付